

平成 30 年度第 4 回観察会 記録

日 時	平成 30 年 7 月 16 日 (月) ~18 日 (水)	
観察地	青森県白神山地 (五所川原市、鱒ヶ沢町、西目屋村、深浦町)	
講 師	永井 雄人先生 NPO法人白神山地を守る会代表	
テーマ	白神山地のブナ林を守る活動を学ぶ	
備 考	参加者数 30 名 (田中先生、スタッフ岩佐・藤原含む)	記録：藤原雄平

はじめに

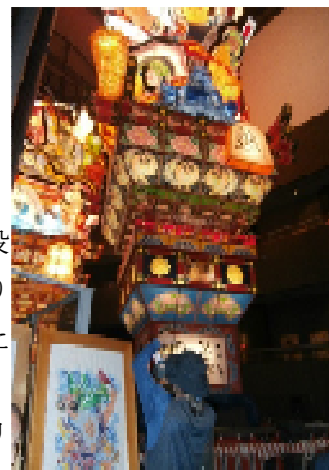
5 月 12 日 (土)、青森から出向いていただいた、NPO法人白神山地を守る会代表の永井 雄人先生から、1993 年に日本で初めて世界自然遺産に登録された白神山地を守る活動について講演をしていただきました。白神山地の魅力や特徴、ブナ林の復元・再生活動などについて熱く語っていただいたお話を、今度は現地で、実体験して共感したく、3 日間の自然観察会を実施しました。

《第 1 日目》 天気：曇り (大阪は晴天)

集合時間の 10 時を待つまでもなく、田中先生除く 29 名の参加者全員がそろい、搭乗券と昼食弁当を配布。JAL機で、11:30 伊丹空港出発、12:55 青森空港に到着。

先行されていた田中先生、3 日間お世話いただく永井先生、及び永井先生の助手役の吉尾 聖子さんと合流して青森観光の大型バスに乗車。車内で早速、永井先生よりパンフレットの地図や写真を使って、3 日間に亘る行程について説明を聞かせていただきました。

五所川原市の立佞武多の館に立ち寄り、約 1 時間、立佞武多の展示や祭りのスクリーン上映、お囃子の実演などを楽しみました。TVなどでよく登場する青森市の佞武多とは一味違う、高さ 22m の巨大な立佞武多の姿は迫力満点でした。



〈立佞武多の雄姿〉



〈白神自然学校一ッ森校〉

維持・活用されていることがよく理解できる。ミーティングルームでオリエンテーション、白神自然学校の活動VTR上映、部屋割りの説明など実施。外部の農家に民泊する人たちのシャワーが終わったところで、食堂「農家レストランしらかみ」で地元の主婦

たちの手作り料理をいただいた。食材は地元で採れたものばかりで、金色の鮎をはじめ珍しい物づくしにみんな大

16:30 鱒ヶ沢町一ッ森の白神自然学校に到着。廃校となった一ッ森小学校の校舎を再生して使用しており、旧教室がミーティングルームや、食堂、宿泊室、資料展示室などに転用されている。永井先生と地元の人たちの想いが一体となって、旧校舎が



〈オリエンテーション風景〉

満足でした。

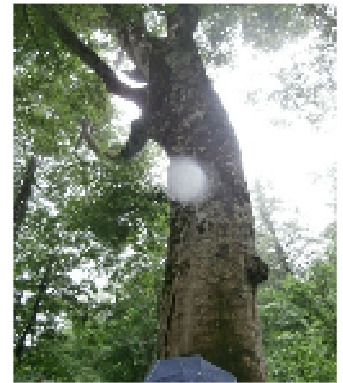
夜は、旧教室、旧校長官舎、農家と分散して就寝。農家でお世話になった人たちは生粋の津軽弁のもてなしを受け、大阪弁との交歓が楽しかった模様です。猛暑の大阪とは大違い、掛け布団なしには眠れないほどの涼しい夜でした。

《第2日目》 天気：雨

早朝、寝床の中でかなりの強さの雨音を聞く。今日は山中に入る日、せめて今日だけは降らないでいてくれと祈る気持ちで起床する。農家民泊の人たちが自然学校へ戻ってきたのを待って、7時より昨夕食と同じ「農家レストランしらかみ」で朝食。早朝、近くの川へ金色の鮎釣りに出かけたFさん、川向うに親子連れのクマを目撃して釣りどころではなく早々に退散。食事中もクマの話題で賑やかでした。

8:30 お世話になった地元の主婦の皆さんに見送られ、マイクロバス2台に分乗して西目屋村の白神山地ビジターセンター目指し出発。ビジターセンターは、ブナの起源や、ブナの一生などが一目でわかるよう展示された、新しい立派な施設でした。隣接の環境省事務所に移動して、白神山地の管理と環境省の役割について担当官から映像による説明がありました。

11:20 いよいよ山中に向かう。道は舗装なしの狭い道で、数は少ない対向車だが離合は難しくドライバー泣かせの道が続く。山中、津軽峠で一時下車、ブナの巨樹“マザーツリー”を見学する。推定樹齢400年、樹高30m、胸高直径148cmの堂々たる大木であるが、サイズの一番大きいということではなく、簡単に近くで見ることが出来る巨樹という位置づけとのこと。確かにその後の走行中とも劣らぬと見えるブナの巨樹が何本も目に映った。



バスの車窓からは、勝る

〈マザーツリー〉

12:30 植樹予定地に到着。植樹の前に腹ごしらえ。おむすびに加え、自然学校から持参した大鍋、ガスコンロ、ボンベを使って永井先生が腕を振るわれた味噌汁をいただく。生憎の雨の中、傘をさして、しかも立っての食事だったが、後々まで思い出に残る昼食になったのではないのでしょうか。食後、一人1本のブナの苗木、2人に1コの鍬を持ちあって植樹場所へ。鍬で20cmほどの穴を掘り苗木の根元に土を被せて軽く



〈雨中、味噌汁をいただく〉

踏み固めるだけで植樹終了。約30本の苗木のうち、果たして何本が成木になるのかと不安に思う反面、

80年後にたわわに実を付けた巨木の姿を思い描いた。植樹後、バスでさらに赤石川上流に入り、ブナ遺伝子保存林の中を約1時間のトレッキング。クマガラの巣穴を見たり、ブナの樹に耳を当て受注を流れる水音を聞いてみたりしながら、ブナの原生林を大いに味わいながらブナの林の中を巡った。

〈一人1本、苗木を植樹〉



15:40 今夜の宿である鱒ヶ沢のホテルグランメール山海荘に向けて出発。18:15 ホテル着。入浴後、19:15 より夕食会兼懇親会。永井先生、吉尾さんにも同席していただき、飲み放題形式でワイワイと楽しく会食。途中で、一人ずつ自己紹介、新受講生は自由に長く、旧人の人はmax1分でスピーチ。ホテルの大浴場は30万年前の地層に 封入された海水が湧き出した化石海水温泉と呼ばれるもので、塩からい味がした。

〈ブナ林の中をトレッキング〉



〈飲み放題付き夕食会兼懇親会〉

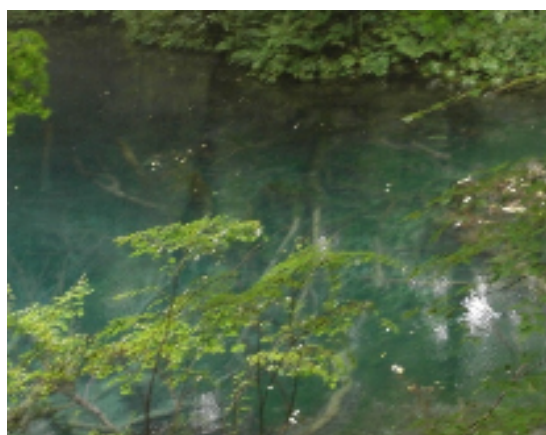


〈第3日目〉 天気：曇り

バイキングスタイルの朝食を楽しんだのち、8:30 前日同様2台のマイクロバスに分乗して、十二湖へ向けて出発。津軽国定公園の指定地の中を日本海に沿って南下、10:00 目的地の十二湖に到着。十二湖は白神山地の西部域にあたり、大小33の点在する湖の総称である。中でも青い水が神秘的に輝く青池が代表的な存在である。湖を鑑賞してから隣接するブナ林の中を前日のトレッキングのように歩く。十二湖は白神山地の良さをコンパクトに集約した宝物のようで、このまましばらくゆっくりしたい欲望にかられる場所でした。



〈十二湖周辺のブナ林を散策〉

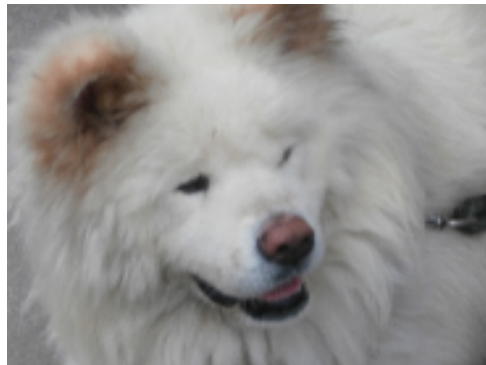


〈十二湖を代表するコバルトブルーの青池〉

11:30 十二湖を出発して、最後の寄り先である不老不死温泉に到着。まぐろステーキ丼の昼食と、海に臨んだ有名な露天風呂での入浴を楽しむ。



14:00 出発。帰路、ホテルグランメール山海荘で預けていた荷物を受け取ってから、ホテル近くに居るといふ秋田犬の「わさお君」に会うためチョット寄り道。細君と娘との3匹家族の「わさお君」



は、新築の看板がかかる大きな犬小屋にデンと座り込んでいたが、もうかなりの老犬らしく首から下はほとんど動きが無かった。ングで、さすがは有名犬、

「わさお君」との顔合わせは想定外のハプニ多くの人が出会いを喜んでいました。

「わさお君」とも別れ、いよいよ青森県ともさよならと大阪便の出発する青森空港へ最後のラン。空港に着くと何か怪しげな雰囲気。見る

〈眠たい眼の「わさお君」〉と空港周辺には濃霧が漂っており、我々が乗る1便前の飛行機は欠航になったとのこと。非常にまずい状況にあることが判明し、飛ぶかどうかの情報収集でバタバタの間に、永井先生、吉尾さんとお別れ。3日間、本当にお世話になりました。今日中に大阪まで帰れるのかどうか、大きな不安を抱えたまま、空港内のレストランで食事していると、やれ幸いなことに予定通り飛行する旨のアナウンス。今晚どこに泊まるのか？ どうやって大阪まで帰るのか？などの不安は消し飛んでやれやれ。定刻8:20青森空港発、19:55伊丹空港に着。空港内で無事に解散を宣言。

〈感想〉

日本で初めて自然遺産に登録された白神山地、関西では見ることのできないブナの原生的な大森林とあって、一度は行ってみたいという希望の持ち主は、シニア自然大学校の関係者の中にたくさんおられることでしょう。私もその一人で、今般念願が果たされたわけですが、白神山地は広大なエリアで、果たしてこの観察会で白神山地をどれだけ知ったと言えるのか、改めて白神山地の大きさを再認識しました。残念ながら2日目が雨天となり、傘や雨合羽をつけての植樹やトレッキングとなりました。しかし今となって思えば、それはそれで良かったのかなと思います。今回、一番気に入ったのは十二湖の周辺で、数日ここでのんびり過ごしてみたい、そんな気にさせられた場所でした。3日間を通じて永井先生の白神山地愛、ブナ林愛、郷土愛が、この観察会に参加された皆さん全員の胸に熱く届いたことでしょう。永井先生、そして吉尾さん、大変お世話になりました。植樹したブナが無事に育っているかどうかいつかまた見に行きたいものです。

以上